資料 3

対象地域の生態系の特性を評価するためのモニタリング計画

	モニタリングの目的	モニタリングの視点	モニタリング内容
環境基礎データ	環境基礎データとして、大台ヶ原における気象データを把握する。	大台ヶ原の環境の変化を把握するための基礎データとして、収集する。	気象に関する調査（気温、湿度、雨量、栄養塩等）
植生	大台ヶ原全体における植生の現状を把握し、自然再生推進計画策定後の変化について評価し、今後の自然再生事業実施のための基礎資料とする。	林冠ギャップ、ミヤコザサ草地の分布状況を平成17、25年と比較することにより、大台ヶ原全体での植生の変化を把握する。	植生の変化（林冠ギャップ地、ミヤコザサ草地の分布状況等）に関する調査
		平成14、20、24年に実施した大台ヶ原全体を100mメッシュに細区分した被度クラス調査によるササ類の分布状況の変化を把握する。	ササ類の分布状況に関する調査
		大台ヶ原全体を100mメッシュに細区分した被度クラス調査によるコケ類の分布状況の変化を把握する。	コケ類の分布状況に関する調査
	大台ヶ原を特徴付ける景観や植生の変化を記録する。	定点写真撮影により景観や植生の変化を把握する。	景観や植生の変化に関する調査
	大台ヶ原を代表する植生の変化について、把握する。	ニホンジカの影響下にある防鹿柵外における植生の変化をモニタリングすることにより、ニホンジカ個体数調整の効果を把握する。	ニホンジカによる植生への影響把握調査
	外来種の侵入について把握する。	歩道沿い及び、ドライブウェイ・駐車場沿いの国外外来種分布状況を把握し、外来種の侵入状況を把握する。	外来種に関する調査
動物	大台ヶ原全体における動物の生息状況を把握し、自然再生推進計画策定後の変化について評価し、今後の自然再生事業実施のための基礎資料とする。	大台ヶ原地域における動物相・群集の長期的な変化を追跡し、動物の観点から生態系を把握する。 哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類等の動物相の現状及び変遷を把握する。 　また、地表性小型哺乳類・地表性甲虫類・大型土壌動物の生息状況から、それらの動物群集と地表・土壌環境や下層植生等との関連を、樹上性小型哺乳類・鳥類・クモ類の生息状況から、それらの動物群集と森林の階層構造等との関連を、両生類の生息状況から渓流とそれに隣接する森林の健全性との関連を把握する。 　なお、生態系における生物間相互作用と環境指標性に留意し、必要に応じて自然再生上の目標・課題と関連した調査を検討・実施する。	動物モニタリング調査